

2023

期間：2023年3月から2024年2月末日



Environment Report

環境報告

有限会社 | 伊豆クリーンサービス

eco-action21 since 2008

作成日

2024年5月8日

目 次

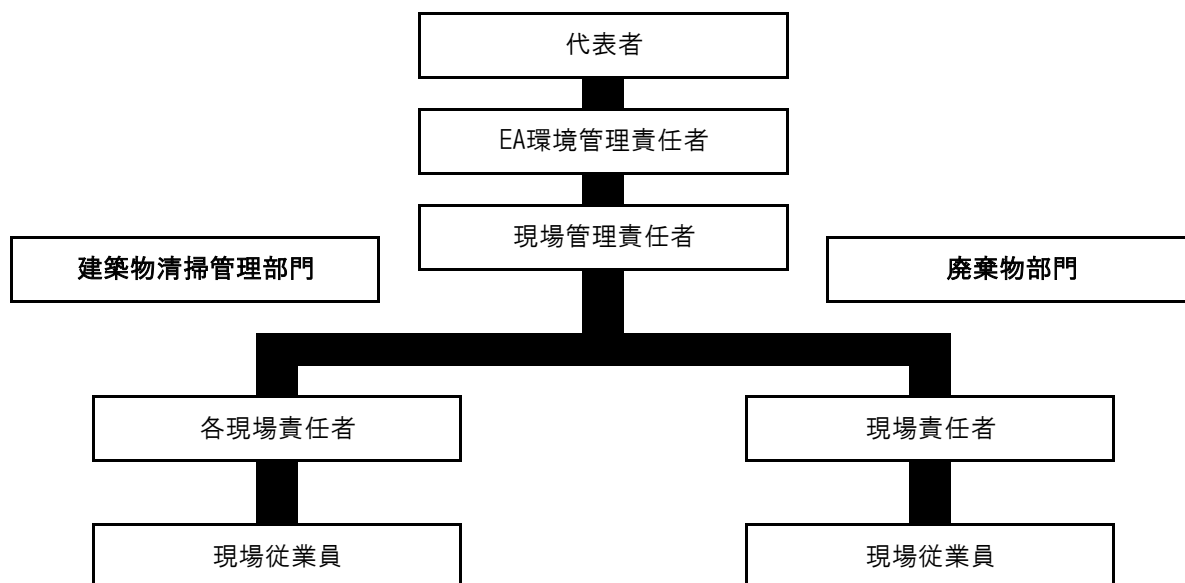
	頁
i. 組織の概要	1～2
ii. 環境経営方針	3
iii. 廃棄物に関する情報公開項目	4
iv. 環境短期目標と評価結果	5～6
v. 環境中長期目標	7
vi. 環境活動計画の取組結果と評価	8
viii. 環境関連法規の違反、訴訟の有無	9
ix. 環境上の緊急事態の対策と連絡体制	11～12
x. 代表者による全体評価と見直し結果	13

i. 組織の概要

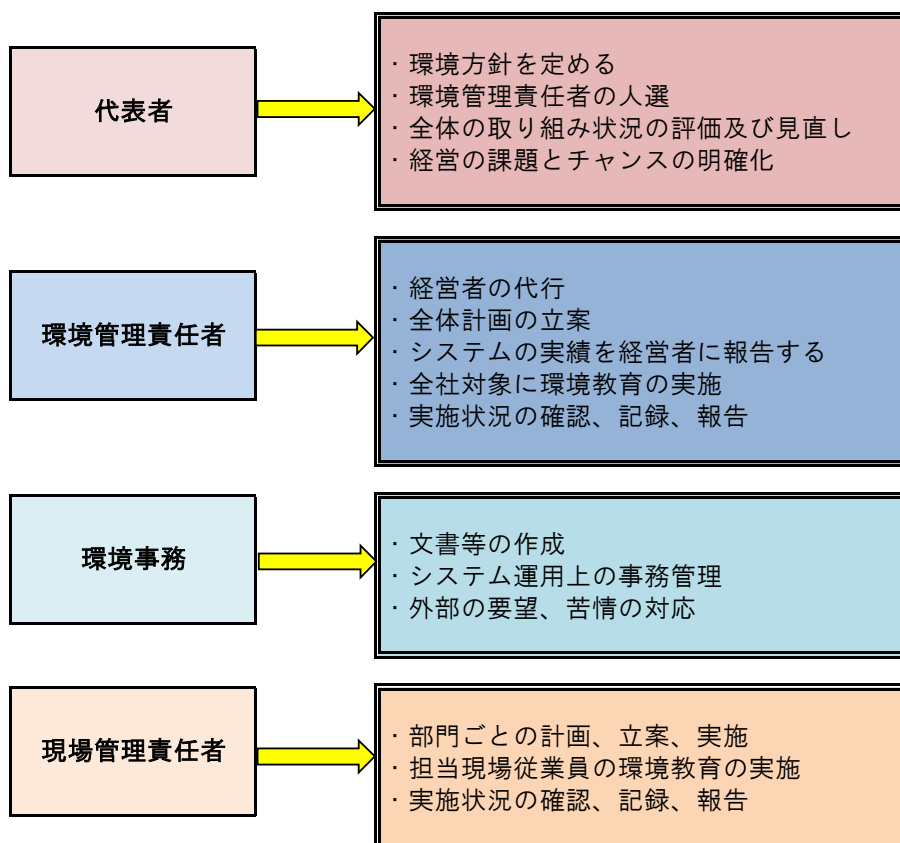
名 称	有限会社 伊豆クリーンサービス	
代表者氏名	代表取締役 八木澤潤	
本 籍	静岡県伊豆市城40番地の1	
本社営業所	静岡県伊豆市城695番地の5	
事業の内容	・ 建築物清掃業	
	・ 一般及び産業廃棄物収集運搬・リサイクル業	
従業員数	49名	
環境管理責任者	取締役部長 坂田広幸	
担当窓口	取締役専務 八木澤真美	
連絡先	TEL : 0558 (83) 1005	
	FAX : 0558 (83) 1056	
	E-Mail : izu.cs@jewel.ocn.ne.jp	
事業の規模	設立年月日:	1975年12月23日
	資本金:	300万円
	売上高:	219百万円
	従業員数:	上記のとおり
	敷地面積:	760 m ²
	延べ床面積:	54 m ²
認証取得登録範囲	全社、全従業員対象	

2023年度実績による

～ 実施体制図 ～



～ 役割の内容～



ii. 環境経営方針

～ 環 境 理 念 ～

清掃を業務としている企業として、自然の営みに配慮した「事業活動を通じ
地域と地球の環境保全および資源循環型社会の構築に貢献します。

～ 行 動 指 針 ～

当社は、環境理念に基づいた環境保全及び資源循環型社会の構築を
を目指す企業として、全社員に環境に対する関心および意識改革への
取り組みを強化し、以下各指針の教育活動を行うことにより地域、地球
環境への汚染予防に努めます。

また、環境経営の継続的改善を誓約します。

- ・ 環境に関する教育を全社員に行い意識向上を図ります。
- ・ 環境関連の法律を周知させ、遵守します。
- ・ 二酸化炭素・廃棄物・給排水の削減、再資源化の推進をします。
- ・ 廃棄物収集運搬によりリサイクル量を増加させます。

2007年10月1日制定

2020年6月17日 改訂

有限会社 伊豆クリーンサービス

代表取締役 八木澤 潤

iii. 廃棄物に関する情報公開項目

1) 許可・認可の内容

許可の範囲	事業の範囲	許可番号	有効年月日	取得・更新年月日
静岡県 (産業廃棄物)	収集・運搬	第2201108249号	R11. 1. 21	R6. 1. 22
伊豆市 (一般廃棄物)	収集・運搬	伊豆市指令第3号	R8. 3. 31	R6. 4. 1
伊豆の国市 (一般廃棄物)	収集・運搬	伊国ク第526-4号	R7. 3. 31	R5. 4. 1
伊東市 (特定家電用機器)	収集・運搬	伊東市指令環第526-4号	R7. 3. 31	R5. 4. 1
一般貨物運送事業	一般貨物	中運自貨第441号		H14. 11. 18

2) 産業廃棄物の種類

廃プラスチック類(※) (石綿含有廃棄物を除く)	金属くず(※)	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず (石綿含有廃棄物を除く)(※)
がれき類	汚泥	廃酸
廃油	廃アルカリ	紙くず
木くず	繊維くず	動植物性残さ

(※) は水銀使用製品産業廃棄物を含む

以上12品目

3) 施設等の状況

車 種	3t パッカー	3t ダンプ	2t キャブオーバ	3t アームロール	3.5t 移動式クレーン車	車両台数合計
台 数	4	1	2	1	1	
車 種	清掃用移動車	清掃スタッフ 送迎車	軽トラック	1.5t フォークリフト		14
台 数	2	1	1	1		

4) 処理実績 (2023年度)

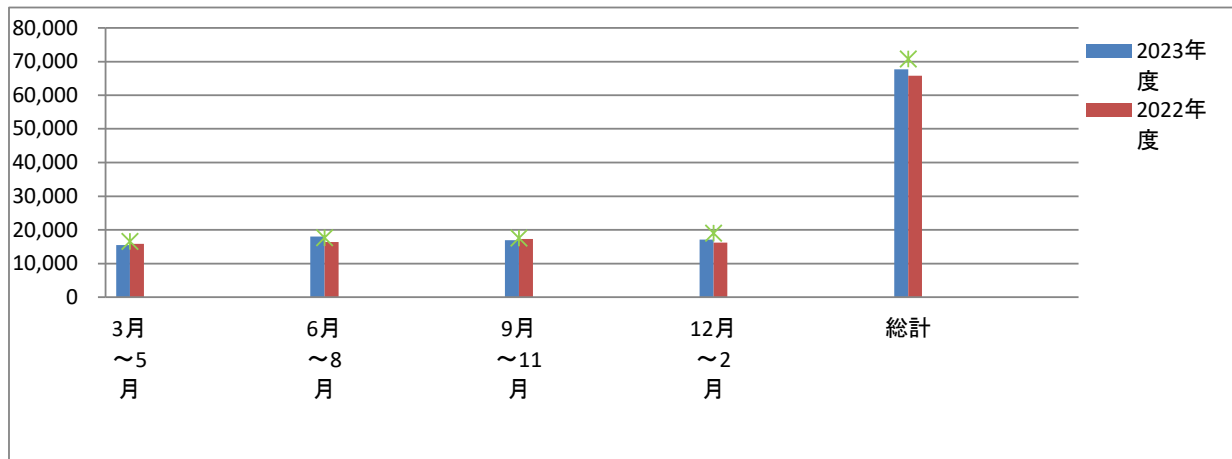
廃棄物の種類	一般廃棄物	産業廃棄物	再生資源回収	総数
重 量	540.3 t	60.3 t	145.9 t	746.5 t

iv. 環境短期目標と評価結果

1) 二酸化炭素排出量

(2022年度から電力、化石燃料の排出量を合算して目標数値改訂)

目 標		項 目	単位	3月～5月	6月～8月	9月～11月	12月～2月	総計	
		排出量目標値	kg - CO ²	16, 550	17, 670	17, 524	18, 950	70, 694	
購入電力 量	実 績	前 年 度	kWh	1, 195	1, 211	1, 114	1, 859	5, 379	
		購入量実績値	kWh	1, 210	1, 369	1, 222	1, 810	5, 611	
		購入量前年比		1%	13%	10%	-3%	4%	
		排出量実績値	kg-CO ²	536. 0	606. 5	541. 3	801. 8	2, 485. 7	
		前年度実績値		529. 4	536. 5	493. 5	823. 5	2, 382. 9	
		化石燃料 使用量	実 績	2023年度	軽油 (L)	5, 505	6, 383	6, 077	5, 940
ガソリン (L)	359				424	340	421	1, 543	
ℓ	5, 863				6, 807	6, 417	6, 361	25, 448	
車両稼働日数	482				459	465	456	1, 862	
総走行距離 (km)	39, 890				42, 090	40, 054	38, 439	160, 473	
2022年度	ℓ			5, 978	6, 170	6, 561	6, 002	24, 711	
	車両稼働日数			336	398	472	458	1, 664	
	総走行距離 (km)			35, 853	35, 509	43, 547	38, 492	153, 401	
排出量実績値	kg-CO ²			15, 034	17, 450	16, 467	16, 301	65, 252	
前年度実績値				15, 335	15, 815	16, 826	15, 380	63, 356	
2023年度排出量計 (kg-CO ²)				kg-CO ²	15, 570	18, 056	17, 008	17, 103	67, 740
1日当り排出量量					31. 2	39. 3	36. 6	37. 5	13. 7
2022年度排出量計 (kg-CO ²)					15, 864	16, 351	17, 320	16, 204	65, 739
1日当り排出量量			47. 2	41. 1	36. 7	35. 4	14. 9		
二酸化炭素排出量前年度比率 (%)				-1. 9%	10. 4%	-1. 8%	5. 5%	3. 0%	
排出量に対する評価				○	○	○	△	○	

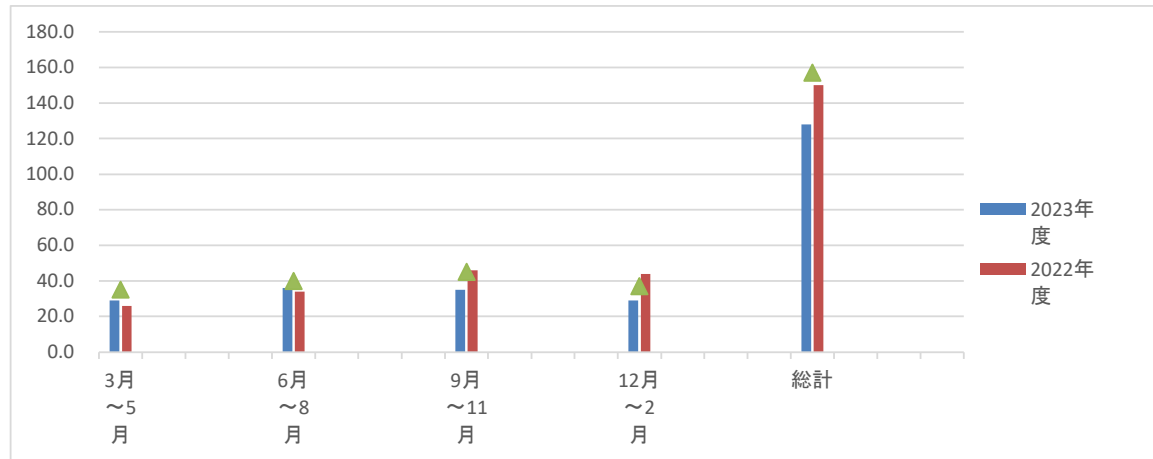


※CO₂排出係数は、2022年度 東京電力の排出係数0.443kwhを使用。

改定内容：二酸化炭素排出量は、総体的な使用量からの排出量比較でなく稼働日数割する事で1日当りの排出量で評価する。

2) 水資源使用量

目	項 目	単位	3月～5月	6月～8月	9月～11月	12月～2月	総計
標	使用量目標値	m ³	35.0	40.0	45.0	37.0	157
実績	前 年 度	m ³	26.0	34.0	46.0	44.0	150
	使用量実績値	m ³	29.0	36.0	35.0	29.0	128
	使用量前年度比	%	12%	6%	-24%	-34%	-15%
目標値に対する評価			○	△	○	○	○

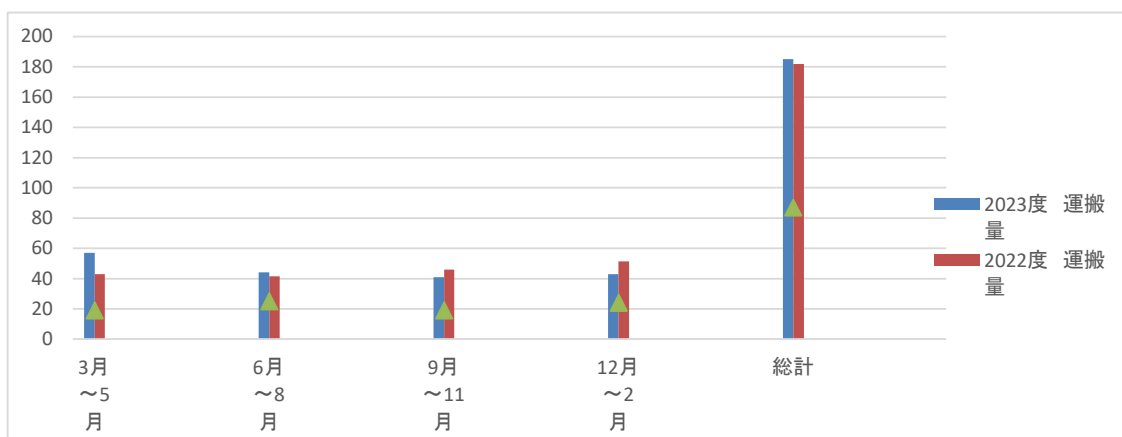


3) 受託廃棄物再生量

産業廃棄物を中間処理施設、専ら物を問屋へ搬入しリサイクルされる事で、環境配慮に当
たるため、負荷目標対象に取り入れる。また目標数値も40%増で改定。

目	項 目	単位	3月～5月	6月～8月	9月～11月	12月～2月	総計
標	受託量目標値		19.0	25.0	19.0	24.0	87.0
実績	今年度実績総量	t	56.9	44.3	40.9	43.0	185.10
	専ら物		45.9	33.0	33.1	33.9	145.90
	産業廃棄物		11.0	11.3	7.8	9.1	39.20
	前 年 度		43.02	41.59	45.97	51.40	181.98
	前年度比	%	32%	7%	-11%	-16%	2%
目標値に対する評価			○	○	○	○	○

※産業廃棄物の混合廃棄物はリサイクル率が50%で算出。



5) 一般廃棄物

社員が昼食を社内ですらないので、廃棄物が少量により除外します。

6) 清掃管理業務

委託業務で、電力・水資源の供給は顧客施設提供のため各現場責任者が、節電
及び節水など環境負荷をミーティング事項の中に取り入れ周知しています。（年1
回以上実施）

Ⅴ．環境中長期目標

＜年度目標と実績＞ ●表左基準年度

1) 二酸化炭素排出量

目 標	項 目	単位	‘20年度	‘21年度	‘22年度	‘23年度	‘24年度	‘25年度	‘26年度
	排出量目標値		71,771	71,412	71,053	70,694	70,336	69,977	69,618
	排出量目標%	kg-CO ₂	100.0%	99.5%	99.0%	98.5%	98.0%	97.5%	97.0%
	二酸化炭素排出量計		67,551	67,983	68,208	70,226	-	-	-
実 績	購入電力	購入量実績値	5,113	4,891	5,379	5,611			
		購入量前年度比%	100%	-4%	10%	4%			
	排出量実績値	kg-CO ₂	2,392	2,123	2,335	2,486			
	東京電力排出係数	Kwh		0.434	0.434	0.443			
	化石燃料使用量	軽油	22,210	24,997	23,191	23,905			
		ガソリン	3,387	1,823	1,520	1,543			
		合計	25,597	26,820	24,711	25,448	-	-	-
		排出量実績値	65,159	65,860	65,873	67,740			
	二酸化炭素排出量目標値比	%	100.0%	-4.8%	-4.0%	-0.7%			
	評 価			○	○	○			

※CO₂排出係数は、2022年度東京電力の排出係数0.443kwhを使用。

2) 水資源使用量

‘22年5月、目標値改訂			(2026年度までに6%減)						
目 標	項 目	単位	‘20年度	‘21年度	‘22年度	‘23年度	‘24年度	‘25年度	‘26年度
	使用量目標値	m ³	160	158	157	155	154	152	150
	使用量率		100.0%	99.0%	98.0%	97.0%	96.0%	95.0%	94.0%
実 績	使用量実績値	m ³	122	128	150	128			
	目標使用量比%			-19%	-4%	-18%			
	評 価		○	○	×	○			

4) 受託廃棄物再生量

‘22年を基準に産廃の他、回収していた専ら物が再生資源となり増量となることにより、目標数値を改定

(2026年度までに8%増)

目 標	項 目	単位	‘20年度	‘21年度	‘22年度	‘23年度	‘24年度	‘25年度	‘26年度
	受託量目標値	t	60.0	63.0	182.0	185.6	189.3	192.9	196.6
	受託量実績値	t	61.0	71.9	182.0	182.0			
	目標値比	%	100%	14%	0%	-2%			
	評 価			○	○	○			

vi. 環境活動計画の取組結果と評価

取組の内容		取組 結果	評価者	取組の評価と次年度の取組内容
①購入電力	・ エアコンの設定温度 夏季27度 温度設定 冬季20度	△	杉本	例年に比べ暖冬であったが使用量が増加した。今冬にエアコンを入れ替えた為か、12月～2月の使用量が減少したので、今後の効果が期待できる。
1.5%削減	・ 消灯の徹底 省エネ灯の使用	○	杉本	人のいない場所は消灯を心掛けていので引き続き実施していく。
②燃料消費量 0.1%削減	・ 緩発進、緩加速の徹底 ・ アイドリングストップ ・ 車両ごとの燃料消費量の 月別報告書の作成	○	坂田	前年度に比べ走行距離が増加している為、年間排出量は増加しているが、1日当りの排出量は減少しているので、ドライバーのエコドライブができているようである。
③水道量の削減	・ 節水表示の掲示 ・ 朝礼時の再確認事項	○	渡辺	1年を通して使用量が減少した。水道の放出も今年度は無かったので、徹底できている。
④受託産業廃棄物 量の増進	・ 顧客の増加	○	手老	顧客が増えてきている為、収集運搬量、リサイクル量ともに増加傾向であるが、この2～3年 処分先の搬入時規定が厳しくなっている為、顧客へ周知を促している。
③コピー用紙の削減	・ 両面コピーの推進 ・ ミスプリントの再利用 (メモ帳など)	○	渡辺	4月～5月は契約書の作成、9月～10月にかけ予算見積りの作成が増加する為、重点時期として今期も取り組む。
⑤グリーン購入	・ 物品購入時、エコ マークの推進	○	渡辺 坂田 手老	グリーン購入は2016年以降取り組み除外としているが、購入自体は引き続き推進する。今後も引き続き取り組んでいく。
①～⑤までの周知 (各清掃現場従業員 への周知)	・ 1回/年ごとの 研修事項	○	渡辺 坂田 手老	顧客施設で電気及び水道は提供されている。その為、各現場従事者全体で節電節水に取り組んでいる。例年ミーティング内容に取り入れていく。
草刈り・ごみ拾い	会社周辺の美化活動	○	手老	ごみ拾いについては、短時間ながら毎朝実施する事が自然になった。河川清掃は時間が空いたときに社員が率先し行ったため、2回実施した。

vii. 2023年度 環境活動計画

取組目標 (2023年度)	取組手段	担当者	強化月間													
			3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2		
①購入電力	・ エアコンの設定温度 夏季27度 設定温度 冬季20度 //は暖房使用の為重点箇所	杉本														
	1 %削減	杉本														
②燃料消費量	・ 急発進、急加速 ・ アクセルワーク教育 ・ 車両ごとの燃料消費量 の月別報告書の作成 赤エリアは車両のエアコン 使用の為、最重点箇所	坂田														
	0.5%削減															
③コピー用紙の削減	・ 両面コピーの推進 ・ ミスプリントの再利用 (メモ帳など)	渡辺														
④水道量の削減	・ 節水表示の掲示 ・ 朝礼時の再確認事項 ・ 節水コマの設置	佐藤														
⑤受託産業廃棄物 量の増進	顧客の拡大	手老														
⑥グリーン購入	・ 物品購入時、エコ マークの推進	各現場責任者														
①～⑥までの周知 (各清掃現場従業員 への周知)	・ 1回/年ごとの 研修事項	各現場責任者														
草刈り・ごみ拾い	会社周辺の美化活動	手老														
																

viii. 環境関連法規の違反、訴訟の有無

遵守日 令和6年5月8日

【 環境関連法規取りまとめ表 】

環境責任者			坂田 広幸		
法規制等の名称	遵守事項		条項	判定者	判定
廃棄物処理法	一般廃棄物	許可証の更新年月日・掲示・保管状況	7条	佐藤	○
		月別の運搬業務状況報告書の提出・保管	7条11項	佐藤	○
		各車両に許可証写しを保管		佐藤	○
	産業廃棄物	許可証の更新年月日・掲示・保管状況	14条	手老	○
		契約書の保管	12条3～5	手老	○
		帳簿の記載、マニフェストの保管	10条の8、12条の3	手老	○
		運搬実績報告書の提出（電子申請による）	22条	手老	R6. 5. 8
		各車両許可表示、許可証写及びマニフェスト携行	7条の2	手老	○
		管理票交付状況報告書の提出	12条の3	手老	該当なし
		産業廃棄物の収集・運搬、処分等の処理基準に従う	6条の1	手老	○
容器包装リサイクル法	顧客への分別の徹底（分別看板の設置又は説明会の開催）			手老	○
特定家庭用機器再商品化法（小売業者登録）	リサイクル券の発行			佐藤	○
	収集運搬料金の明示		13条第4項	佐藤	○
	リサイクル券の保管（3年）			佐藤	○
	リサイクル料金 確認・把握				○
	台帳の備え付け			佐藤	○
	適正処理		6条	佐藤	○
自動車リサイクル法	適正処理の可能な整備工場へ依頼			手老	該当なし
フロン排出抑制法	フロン回収有無の確認、適正処理			足立	○
	委託確認書の保管（3年間）			足立	○
貨物自動車運送事業法	一般貨物自動車運送事業報告書		2条	渡辺	○
	点呼、運転日報の記載		8条	渡辺	○
	運転免許証の毎朝提示・確認			渡辺	○
	アルコールチェック（運行前後）		65条	渡辺	○
	日常・定期点検（3ヵ月・12ヵ月）		1条、2条	足立	○
	法令速度、積載量の遵守		22条	渡辺	○
安全衛生法	フォークリフト、移動式クレーン、玉掛け技能講習修了証の提示		61条	手老	○
	フォークリフト、移動式クレーンの定期・年次点検		45条	手老	○

<違反、訴訟等の有無>

- ・ 過去5年間で、上記環境関連法規の遵守事項を確認した結果、違反はありませんでした。
- ・ 関係機関からの指導、指摘等及び訴訟もありませんでした。

代表者 八木澤 潤

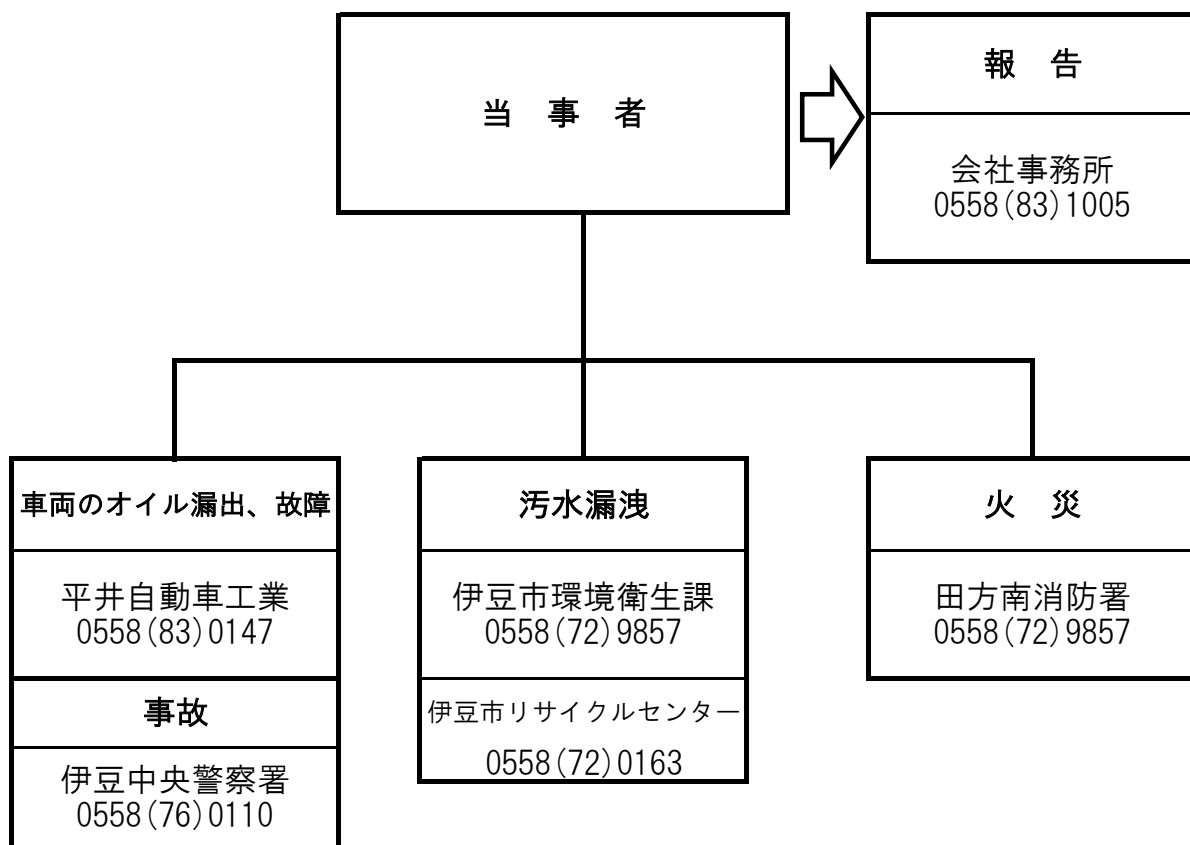
ix. 環境上の緊急事態の対策と連絡体制

< 緊急時の対策 >

環境に伴う想定される緊急事態について、環境への悪影響を最小限に食止め、内外への連絡を迅速, 且つスムーズに対応できるよう、可能な範囲で年1回以上の訓練を行う。

さらに訓練のあと、迅速な対応が有効に機能しているかを検証し、不具合等ある場合は改善策を協議する。

< 緊急時連絡フロー >



2023度 < 緊急事態の想定、訓練 ① >

緊急事態の内容		訓練内容		訓練年月日時		準 備	
汚水の漏洩（車両）		汚水漏洩処理		令和5年10月19日		・ ウェスタオル ・ コンテナ容器を携行	
				15：40～		・ 汚水ドレンパッキンの亀裂、損傷の確認	
想定場面		路上に、汚水が漏洩					
対応策フロー							
対応	発見時、汚水漏洩箇所の確認、処理	→	市役所へ連絡		→	汚水漏洩処理後の報告（市役所担当部所）	
対応策	ウェスタオルで漏水箇所を止める		市役所担当部所の再確認			汚水漏洩処理後の報告	
訓練風景				対応策の効果			
				車齢の古いパッカー車を主体に汚水槽ドレンパッキンの亀裂損傷が無いかを汚水槽に水道水を入れて漏水点検を行ったが、漏水は見受けられなかった。 ※検証の結果 対応策、手順について問題なしと判定。			

2023度 < 緊急事態の想定、訓練 ② >

緊急事態の内容		訓練内容		訓練年月日時		準 備	
車両荷台 出火		初期消火		令和5年10月19日		・ 消火器（収集車搭載） ・ 積込前の内容物確認 ・ 分別注意看板の設置	
				16：15～			
想定場面		可燃ごみの積込中、モバイルバッテリーの混入で発火					
対応策フロー							
対応	近くの安全な場所へ移動し 初期消火	→	消防署、市役所担当部署へ 通報		→	事後報告	
対応策	パッカー車テールゲートを開 け、消火器で初期消火		通報			消火後の後片付けを行う	
訓練風景				対応策の効果			
				消火器の操作手順を確認をし、現在多く発生しているモバイルバッテリーが混入して発火する事故を想定し、積込ごみに引火した可燃ごみをパッカー車から降ろし消火する手順の確認を行った。 火災時の緊急連絡フローの再確認を周知した。 ※検証の結果 対応策、手順について問題なしと判定。			

x. 代表者による全体評価と見直し結果

1. 見直し実施日： 2024 年 5 月 11 日

2. 実施者： 八木澤 潤

2023年度 全体の評価と見直し・指示

○1年を通して二酸化炭素排出量は増加した理由としては、稼働日数が昨年度に比べ、200日程度増加したことに繋がる。新型コロナウイルスが5類へ以降後感染者数を公表する事がなくなったが、感染者数は軒並み増え続けている。その為、移動時の車両は分乗するよう現在でも対策を取っている。そのような対策の中でも、1日当りの二酸化炭素排出量は昨年と比べ減少となっているので、良い評価に値する。
電気については、12月に10数年使用したエアコンを最新に変えた効果なのか暖房を年間で最も使用する最終3カ月が減少となっているので、今後の動向が楽しみである。

○水資源については、昨年あった放出事案が無かった事と、全体の使用量が減少しているので、引き続き今年度も気を付けていく。

○産業廃棄物収集運搬受託量は若干であるが増加傾向、その他専ら物がである古紙類や金属類が完全再生資源となる為、2022年度から数値に加算した。

以前は十年一昔と言っていたが、昨今の時の流れは三年一昔と言ってよいほど激動で新型コロナウイルスから始まり、世界的なカーボンニュートラルの取り組み、またロシアのウクライナ侵攻など世界情勢が激動し、異常なまでの物価上昇に歯止めがかからず、企業の「経費」はさらに厳しさを増していくなかで、経営者と社員がより一層一層となりこの激動な時代と向き合っていく必要があるようだ。

<経営者指示>

環境経営方針、目標、計画、実施体制は継続とする。

目標：2023年度以降の水使用量については、使用量が少なく車両の洗車等に使用する事が主でバラつきが大きい為、目標値を置かず実績把握のみとする。

代表取締役 八木澤 潤